

あぐりめ〜る新川

第59号(平成25年6月発行)
富山県新川農林振興センター
〒938-0801 黒部市荻生3200
(TEL) 担い手支援課 (0765)52-0268
(0765)52-5192
農業普及課 (0765)52-0094
(0765)52-0945

(FAX) (0765)52-3115

http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1630/

新川 農業の未来を担う人 ~第5回~

小松農園 小松 明さん(入善町今江)

~トマトのオリジナルブランドを目指して~

小松明さんは、短大を卒業後、民間企業に就職しましたが、家族全員でやれる農業に魅力を感じ、退職して就農することを決意しました。県の事業を活用し、石川県小松市で2年間先進地のトマト栽培の知識と技術を学びました。研修後、大型ハウスと隔離床栽培システムを導入し、トマトの養液土耕栽培に取り組み始めました。

当初から、安定した価格を得るためには、個性的なトマトの生産や販売が必要と考え、養水分を細かく管理することで糖度を普通栽培より高めに保つことができる隔離床栽培方法を導入。また、大手量販店と契約的出荷を行い、独自のスタンド袋を作成し、「小松さんちのとまと」として販売を開始。近所の人にも気軽に買っていただくため、自宅前の直売所でも販売を実践し、現在に至っています。

近年は、新技術(2本仕立てやUターン栽培)の導入や品質改善の実証等栽培技術の向上やコスト低減に積極的に取り組んでいます。

~「地域のため、子供達のため」の農業をより活発に~

これまで、APG黒東、入善町施設園芸組合の会長として若手農業者達と交流を深めるとともに、施設園芸農家の経営改善に貢献してきました。

今年からは黒東施設園芸振興会長として、地域や施設園芸産地の活性化に取り組んでいます。

また、小・中学校の給食への食材提供やトマトに関する特別授業等食育活動の実践、「14歳の挑戦」の受け入れや農業科の生徒への農業指導等を続けています。

これらの活動が評価され、平成24年度元気とやま農林水産奨励賞を受賞されました。今後、益々の活躍が期待されています。



美味しいトマトをみんなに
食べて欲しい!!

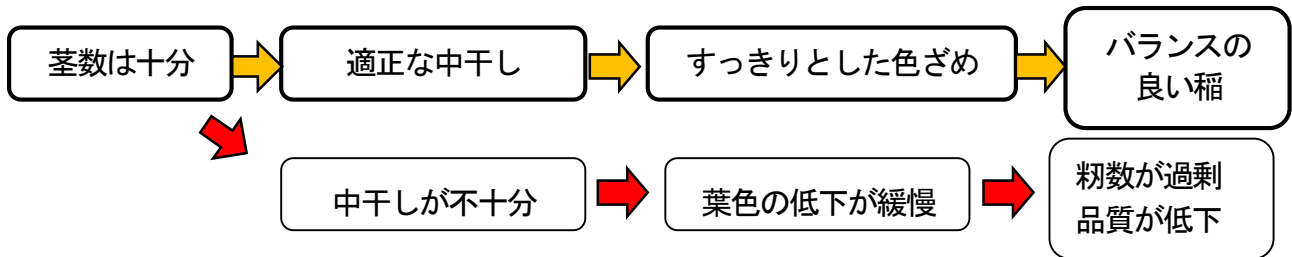


誘引、わき芽取りに忙しい毎日

- P.2...「コシヒカリ」のトップ産地への復活に向けて(2) P.3 大豆ほ場における難防除雑草の防除対策
P.4...園芸品目紹介シリーズ①「ハウスでとやまのカン(寒)カン(甘)野菜を作りませんか？」
P.5...園芸品目紹介シリーズ②「旧盆用の組花を作りませんか？」~多品目を組み合わせて、一気に売り込み勝負!~
P.6...環境保全型農業直接支援対策~環境保全型農業直接支払交付金の要件の見直し~
P.7...広がる農業の新たな可能性~6次産業化と農商工連携について
P.8...耳より情報~農業経営基盤強化準備金、稲作基礎技術研修、果樹導入品目提案研修 etc

「コシヒカリ」のトップ産地への復活に向けて（２）
 ～バランスの良い稲づくりにむけて～

今年、水管理が的確にできたことや田植え以降の好天が続いたことから、稲の生育状況は順調であり、初期の茎数はしっかりと確保できました。今後とも、適切な管理により品質の良い稲づくりに努めていきましょう。



☆登熟期間の異常気象に負けない稲づくりへ

適正な籾数への誘導

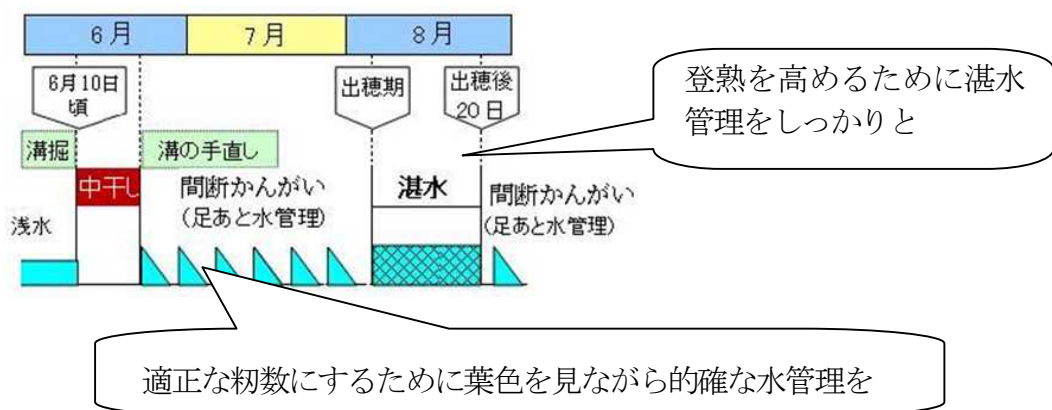
- ・ 幼穂形成期頃までは、一穂の籾数を抑えるための重要な時期です。
- ・ 間断かん水をしっかりと行い、葉色を徐々に低下させていきましょう。
- ・ 中干しが不十分で、葉色の低下が緩慢な場合は、落水期間を長めにとりしっかりと田干しして下さい。

出穂前の追加穂肥で登熟力アップ!

- ・ 登熟期の葉色が淡いと稈りが悪くなり、心白粒などが発生しやすくなります。
- ・ 出穂期の7日前に葉色が3.8を下回る場合は、出穂の3日前までにチッソ成分で1.0kg/10aの施肥を行きましょう。

出穂後20日間は湛水管理

- ・ 出穂後20日間はもっとも登熟（でんぷんの蓄積）が盛んな時期です。登熟を高めるために、この期間はしっかりと湛水管理を行きましょう。



斑点米の発生を抑える

- ・ 斑点米の原因となるカメムシの生息密度を下げるため、雑草地や畦畔の草刈りを徹底するとともに、防除を徹底しましょう。

雑草地や畦畔の一斉草刈り運動期間 7月1～10日
 （一斉草刈り日 7月6～7日）

大豆ほ場における難防除雑草の防除対策

近年、管内でもアサガオ類、イヌホオズキ類、ヒユ類等の難防除雑草の発生が増えており、大豆ほ場への侵入が問題となっています。これらの多くは既存の除草剤が効きにくく、長期にわたり発生するものが多いので、**侵入初期の対応が重要**です。



マルバルコウ



マメアサガオ



イヌホオズキ

【難防除雑草の防除のポイント】

- ①前年、ほ場周辺（畦畔、農道等）で難防除雑草（帰化雑草等）の発生がみられた地域では、**早期発見に努め、発見したら直ちに防除（手取り、除草剤散布）**する。
- ②大豆ほ場内で発生が見られた場合、雑草の種類に応じて効果の高い除草剤を選定し、**結実前の防除を徹底**する（特に、大豆茎葉が繁茂して畦間を被覆する頃までは要防除期間として注意!!）。

○大豆ほ場への蔓延防止対策

対策	作業・管理内容
ほ場に入れない	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場周辺で発生が見られたら、手取り除草又は草種に応じた有効な除草剤を散布する。 ・刈り払う場合は、再生防止のために地際から行う。
種子を増やさない	<ul style="list-style-type: none"> ・結実前に手取り除草又は草種に応じた有効な除草剤(下表)を散布する。 ・刈り払う場合は、再生防止のために地際から行う。 <p style="text-align: center;">＜雑草種子が結実した場合＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刈り取った株は放置せず、ほ場外で適切に処分する。 ・収穫後のすき込みは実施しない。(地表面に落ちた種子を放置し発芽能を低下させる)
ほ場外に広げない	<ul style="list-style-type: none"> ・機械作業の順番を後にする。(トラクタ、コンバイン等) ・機械の清掃を徹底する。 ・粗選別時のゴミはほ場外で適切に処分する。

○帰化雑草に対する除草効果（目安）

注)○:効果が高い、▲:効果が劣る

茎葉処理剤		帰化アサガオ類	イヌホオズキ類等	ヒユ類
選択性	大豆バサグラン液剤	▲(種間差あり)	▲(種間差あり)	▲(種間差あり)
非選択性	ロックス	▲(種間差あり)	○	○
	バスタ液剤	○	○	○
	ザクサ液剤	○	○	○
	ラウトアップマックスロード	▲	○	○

難防除雑草の中でも、帰化アサガオ類は4月から10月まで長期間にわたり発生するため、2～3週間ごと（つるになる前）に発生状況を確認し、適切なタイミングで防除を実施しましょう。特に、狭畦密植栽培の場合、取りこぼすと収穫に支障をきたすほど繁茂するので、注意して下さい。

ハウスでとやまのかん(寒)・かん(甘)野菜をつくりませんか？

県では、「低温下でゆっくり育てる」、「寒気にさらす」、「一定期間貯蔵する」ことで野菜の糖度が増すなど、冬の寒さでおいしくなるメカニズムを最大限に利用した‘とやま’ならではの野菜を、冬限定の高付加価値野菜「とやまのかん(寒)・かん(甘)野菜」と名づけ、生産振興に取り組んでいます。



ハウスを利用したかんかん野菜がおすすめのわけは？

かんかん野菜には雪中品目等もありますが、冬期間の育苗ハウスと労働力を有効利用できる品目として、以下のものを中心に主穀作経営体におすすめしています。

ハウス栽培のため、積雪時でも除雪をせずに、低温下でおいしく育った野菜を収穫できます。

ハウス白ねぎ (品種：「ホワイトスター」)

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
〇〇	△△				×××		□□□□□□□□			
播種	定植				遮光開始		収穫			

特長：白ねぎの白い部分（軟白）は、ビニールフィルムで覆ってつくり、長さは71cmと通常の白ねぎよりやや長くして出荷します。

プチヴェール (品種：「プチヴェール」)

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		△△△					□□□□□□□□□□			
		定植					収穫			

特長：結球しない芽キャベツで、ハウス栽培のためやわらかく、寒くなると糖度が10度以上にもなります。

寒締めほうれんそう (品種：「ヴィジョン」(滑葉種)、「雪美菜」(縮葉種))

10月	11月	12月	1月	2月	3月
〇〇〇〇		××××	□□□□□□□□□□□□		
播種		寒締め処理開始	収穫		

特長：ハウス栽培で葉長が20cmとなった12月からハウスサイドを50cm程度開けて寒さに遭わせることにより、糖度やビタミン類、ミネラルの含有量が高くなります。

～「とやまのかん(寒)・かん(甘)野菜」ブロック別生産拡大研修会～

開催日時 平成25年7月9日(火)午後1時30分～3時30分
 開催場所 うなづき友学館(宇奈月麦酒館となり)2階視聴覚ホール
 参加申し込み 新川農林振興センター 0765-52-5193
 申し込み〆切 平成25年6月26日(水)

※ 〆切日を過ぎても定員に余裕があれば参加可能ですので、お問合せください。



【Let's 園芸!】 旧盆用の組花を作리ませんか?

～多品目を組み合わせて、いっきに売り込み勝負～

お盆用の切花は農産物直売所で大変人気のある商品です。お盆用切花生産に向けての準備は、前年の8月末に苗を注文することから始まります。品目としては、小ギク・アスター・ケイトウ・新テッポウユリの組み合わせがおすすめです。来年の旧盆用の組花の販売に向けて準備を始めませんか?

1 作業スケジュールについて

	8月		4月		5月			6月			7月			8月		
	下	上	上	中	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	
小ギク	苗注文	挿し芽			定植	摘芯										収穫
アスター				播種			定植									収穫
ケイトウ				播種			定植		摘芯							収穫
新テッポウユリ	苗注文				定植											収穫

■ : 防除

※ 各品目のおすすめ品種

- ❖ 小ギク (いずみ、かがやき、やよい)
- ❖ アスター (ステラスカーレット、ステラピンク、ステラブルー)
- ❖ ケイトウ (サカタプライド)
- ❖ 新テッポウユリ (オーガスタ)

2 1a 当たり栽培経費について (単位: 円)

収入

農産物販売	225,000	300円×750束
合計	225,000	

支出

種苗費	24,000	小ギク・アスター・ケイトウ・ユリ
肥料費	1,750	高度化成・S540・苦土石灰
資材費	3,700	黒マルチ・フラワーネット・ハウスバンド
農薬費	1,180	殺虫剤・殺菌剤
出荷資材費	6,000	フラワーキャップ・ゴムバンド
販売手数料	33,750	15% (直売所)
合計	70,380	

収支	154,620	
----	---------	--

※幅80cm・長さ25mの畦2本で試算。資材・農薬などは実際の販売量から1a分を割り出した。また、経費に労賃は含まない。

※2年目からはフラワーネット・ハウスバンドを再利用するので資材費2,200円分が掛らない。黒マルチは再利用できない。



なお、下記のとおり花き栽培の研修会を開催しますので、興味のある方は是非ご参加ください。

～花き新規導入・品目拡大研修会～

- 開催日時 : 平成25年7月12日(金) 午後2時～4時
 開催場所 : 黒部市国際文化センター コラーレ マルチホール
 対象品目 : 小ギク・アスター・ストック・チューリップ(球根・切花)等
 参加申込み : 新川農林振興センター 0765-52-5193
 申込み〆切 : 平成25年7月3日(水)



※ 〆切日を過ぎても定員に余裕があれば参加可能ですので、お問合せください。

～環境保全型農業直接支払交付金の要件の見直しが行われました～

平成 25 年度より「環境保全型農業直接支援対策（環境保全型農業直接支払交付金）」の要件の一部見直しが行われましたので、その概要をお知らせします。

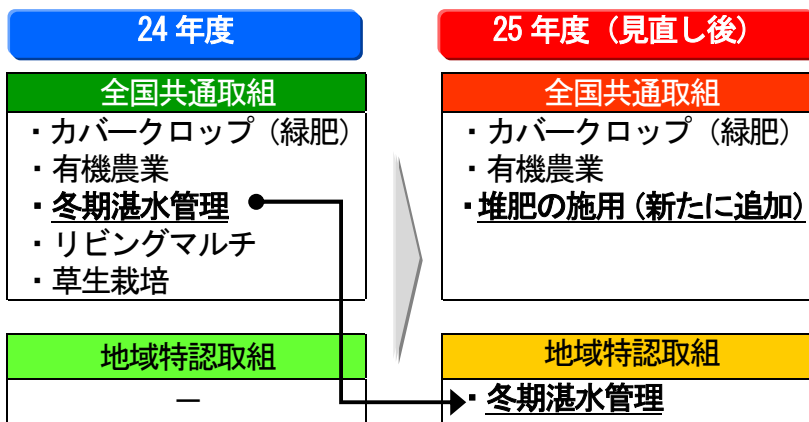
1 環境保全型農業直接支援対策（環境保全型農業直接支払交付金）とは

エコファーマーの認定を受けた農業者等が環境保全に効果の高い営農活動（カバークロープ、有機農業等）に取り組んだ場合、その面積に応じて国と地方公共団体が支援を行います。

2 25 年度の見直し内容

(1) 対象となる取組の変更

全国的な広がりを持った営農活動として取り組まれるよう、新たに「堆肥の施用」を全国共通取組として支援対象に位置付けられる一方で、「冬期湛水」は地域特認取組に変更となります。



※地域特認技術については富山県で認定しているもののみ記載

○ポイント

「カバークロープ（緑肥）」、「堆肥の施用」、「冬期湛水管理」に関しては、主作物（水稻等）の化学肥料及び化学合成農薬の使用を県の慣行レベルから原則 5 割以上低減する取組と組み合わせる必要があります。

(2) 支援単価の変更

取組に必要なコストを精査した結果、一部の取組の単価が見直しとなりました。

取組の内容	単価 (H24→H25)	
・有機農業 (うちそば等雑穀、飼料作物)	8,000 円/10a	→ 8,000 円/10a
	<u>(8,000 円/10a)</u>	→ <u>(3,000 円/10a)</u>
・堆肥の施用	—	→ <u>4,400 円/10a</u>
・冬期湛水管理（地域特認取組）	<u>8,000 円/10a</u>	→ <u>全国共通取組の実施状況により変動</u>

※「カバークロープ（緑肥）」については単価の変更はなし（8,000 円/10a）

今回の要件見直しにより、堆肥の施用により化学肥料等の 5 割低減に取り組む農業者の方は支援の対象となる可能性があります。環境に優しい農業を推進するためにも本事業を積極的に活用してみたいでしょうか。

エコファーマー制度とは？

○エコファーマー制度とは、「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」に基づき、「堆肥等を活用した土づくり」と「化学肥料・農薬の使用の低減」を組み合わせた「環境にやさしい農業」に取り組む農業者を県が認定し支援する制度であり、新川農林振興センター管内では、平成 25 年 3 月末現在で 219 経営体が認定を受けています。

○エコファーマーに認定されると、県が商標権を有する「エコファーマーマーク」を無料で使用することができるほか、無利子の農業改良資金の貸付対象者になれるなどのメリットがあります。

環境保全型農業直接支援対策及びエコファーマー制度に関する問い合わせについては、お住まいの市町及び新川農林振興センター担い手支援課経営支援班(0765-52-0268)までお願いします。

シリーズ 広がる農業の新たな可能性！

～6次産業化と農商工連携の取り組み～

農家自らが自家農産物を活用し、加工・販売に取り組む「6次産業化」。農家と商工業等を営む中小企業者がそれぞれの特長を活かし、商品やサービスを創出、開発する「農商工連携」。いずれもこれからの農業の新たな可能性を探る取り組みとして注目されています。

今回は、管内で6次産業化法に基づく計画認定を受けた組織の取り組みを紹介します。



焼きだての米粉パンがお待ちしています！

MK 農産「米工房Jasmine」(魚津市)

- 自ら生産する新規需要米の米粉を使い、米粉パンの専門店として起業、6次産業化の先駆的な取り組みとして高い注目が集まっています。
- 将来は、自家製のごはんと米粉パスタ、地域の野菜を食材とする「農家レストラン」の開業を夢に、地域の方々とともに地域の発展につながる事業展開を目指しています。



両町のゆるキャラがオープンをお祝い

みな穂農業協同組合 (入善町・朝日町)

- 6次産業化計画に基づき、今年5月には、待望の直売所がオープン。生産、加工、販売、情報発信の拠点として、農協、農家、商工会、企業、行政機関等、様々な組織間連携により、地域全体の6次産業化を進めていきます。
- 既に大ヒットとなった「黒豆茶」に次ぐ、地場農産物を活用した新商品の開発を目指します。



ぴよぴよグループ (入善町)



色んな味の米粉シフォンケーキを開発中

- 米粉パンの加工技術を活かして『米粉シフォンケーキ』を中心とした米粉利用事業を展開しています。米粉100%のシフォンケーキは、現在4種類。今後も、味のバリエーションを上げていく予定です。
- 米粉パンは、町内直売所で毎週月・木曜日に販売しており、今後は、自家製ジャムや地場産の総菜の活用も計画しています。

新川農林振興センターでは、6次産業化研究会や加工基礎講座を実施し、皆さんの6次産業化を支援していきます。詳細な講座内容やお問い合わせは担い手支援課経営支援班(0765-52-0268)までお願いします。

その1 農業経営基盤強化準備金の留意点～平成19年に積立てた準備金の残高がある場合～

- 本年は、平成19年度の農業経営基盤強化準備金(以下「準備金」という。)制度の創設以降初めて、積立てから5年を経過する「準備金」が生じる年であり、平成19年(法人は平成19事業年度)に積立てられた「準備金」は、平成25年(法人は平成25事業年度)に5年を経過し、平成25年の事業所得(法人は所得)の計算上、総収入金額に算入されることとなります。
- ただし、平成25年以内に、この「準備金」を活用して、農業経営改善計画等に基づき「準備金」制度の対象となる農業用固定資産を取得し、事業の用に供した場合には、平成25年の事業所得(法人は所得)の計算上、必要経費(法人は損金)に算入され、課税対象となりません。
- 「準備金」を活用されている方で、平成19年(法人は平成19事業年度)に積立てた準備金の残高がある方は、このことに留意され、「準備金制度」を活用して下さい。

その2 稲作基礎技術研修会～実りの秋に向けて稲の見方を勉強しよう♪～

- 新規就農者や法人の従業員を対象に、生育調査の仕方や幼穂形成期の稲の見方についての水稻の基礎的な技術研修会を開催します。
 - ◇日時：平成25年7月16日(火) 午後4時～5時30分
 - ◇場所：新川農林振興センター(黒部庁舎)黒部市荻生3200

その3 果樹導入品目提案研修を開催します♪

- 果樹栽培に関心のある主穀作経営体や女性グループなどの方を対象に研修会を開催します。
 - ◇日時：平成25年8月2日(金) 午後2時～4時
 - ◇場所：果樹研究センター 魚津市六郎丸1227-1

その4 農業経営法人化説明会の開催 ～法人化を目指す方は是非参加を！～

- 県農業会議では、農業経営の法人化を志向する個人の方や集落営農組織の方を対象に研修会を開催します。
 - ◇日時：平成25年7月29日(月) 午後1時30分～4時30分
 - ◇場所：新川文化ホール 魚津市宮津110

その5 一人ひとりが主役 広げよう安全確認！ ～農作業事故防止～

- 全国では、毎年約400件もの農作業死亡事故が発生しています。県内でも毎年200件を超える農作業事故が発生しています。
- 同封した「農作業安全チェックシート」や「農作業安全に取り組むための参考資料」を活用し、農作業事故の防止に努めましょう。



詳細な内容やお問い合わせは担い手支援課経営支援班(0765-52-0268)までお願いします。